

第4学年 国語科実践事例モデル(在籍学級)

(1) 単元(または題材)名

物語文「ごんぎつね」

(2) 対象児童の状況

対象児童	母語(出身国)	日本語習得状況	国語科に関する力
A	ポルトガル語(ブラジル)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本生まれ、1年間保育園に通園後入学。 ・日常会話に大きな支障はない。どうしてもこのような行動をとったかなど、内面を表現することは難しい。 ・学習言語を正確に把握することは難しい。 ・父は、中学生の時にブラジルから来日、母はフィリピン出身である。父は日本語の理解がほとんどできないが母は日本語を理解できる。家庭では日本語を使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母語での学習歴はない。 ・国語については、4年生の1学期まで、取り出しで授業を受けていたが、日本語の理解が進んできたため、2学期から在籍学級で授業を受け始めた。 ・両親の母語が異なる。(母：タガログ語、父：ポルトガル語)親子の会話は日本語を使用している。本児は日本語しか理解できないため、思考言語は、日本語であると考えられる。

(3) 単元(又は題材)の指導方針

① 日常の授業で大切にすること

- A 授業の初めと終わりの「あいさつ」をきちんとする。
- B 学習課題を必ず提示する。
- C 三色チョークで板書する。教科書の文→白色 様子→黄色 気持ち→赤色
- D 物語文の授業の流れを大切にすること。
前時の復習→課題提示→音読→学び合い→まとめ→言葉(大事な表現・言葉を扱う)
- E 授業の流れを板書に示す。
- F タイマーで設定時間を計る・時間延長、授業延長をしない。
- G だまって挙手をする。ハンドサインを使用する。

② 国語の力をつけるうえで大切にすること

- A 意見の発表の仕方を教える(話型の提示)。
- B 教師が児童の発言をうなずいて聞く。
- C 文章を読むときは、指読みをさせる(指読み→読んでいるところを指でなぞる)。
- D 文章を書く場面を位置づける。

(4) 単元(又は題材)の目標

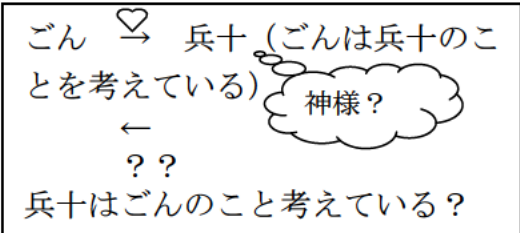
① 教科の目標

- ・話の内容を理解し、登場人物の気持ちの変化を読み取る。

② 日本語の目標

- ・「○○○という言葉から、○○○○な気持ちがわかる。」という表現を使用して、自分の意見を発表する。

(5) 単元の指導 (全17時)

次	学習活動	教師の働きかけ (発問○) 日本語表現の支援 (●)	指導上の工夫・留意点 (板書・ワークシート等)
1次	全文を読み、初発の感想を書く。(1時間)		
	場の設定、語句調べ(2時間)		
	音読、課題づくり(2時間)		
2次	1の場面(3時間)	・穴の中での様子、いたずらをする様子からごんの気持ちを考える。 ・いたずらをされた兵十の気持ちを考える。	
	2の場面(2時間)	・兵十の家の葬式を見たごんの気持ちの変化を考える。 ・母を亡くした兵十の気持ちとごんに対する気持ちを考える。	
	3の場面(2時間)	・ひとりぼっちになった兵十へのつぐない行動からごんの気持ちの変化を考える。 ・どろぼうにまちがえられた兵十の気持ちについて考える。	
	4の場面(2時間)	・兵十と加助の後をついたり、お念仏がすむまで待っているごんの気持ちを考える。 ・神様のしわざだと言っている兵十の気持ちを考える。	
	5の場面(1時間)	・あくる日もくりを持っていくごんの気持ちを考える。 ・ごんが家に入っていくのを見かけた兵十の気持ちを考える。	
2次 (11時間目)	本時(次)の目標		
	①教科の目標 ・兵十に撃たれ、ぐったりと目をつぶったままうなずくごんの気持ちを考える。 ・ごんを撃ち、火縄銃をばたりと取り落とす兵十の気持ちを考える。		
	②日本語の目標 ・手がかりになる言葉を見つけ、「○○○という言葉から、○○○○な気持ちがわかる。」という表現を使用して、自分の意見を発表する。		
	1 前時を復習する。 ・友達の感想を聞く。	○「引き合わない」気持ちって？ いい気持ち？悪い気持ち？  ごん♡兵十(ごんは兵十のことを考えている) ← 神様? ?? 兵十はごんのこと考えている？	・このような図を示し、支援する。 ・ごんの行為が兵中に神様のしわざだと思われていることに、「 <u>引き合わない</u> 」と感じているごんの気持ちを思い出させる。
2 課題を提示する。	○ごんと兵十の気持ちを考えよう		
3 音読する。 一斉読み 一人読み	○今日学習するところを読みましよう。		
4 自分の考えを書く。	○ごんや兵中の気持ちが分かるところに線を引きましょう。	・対象児童には、板書計画と同じワークシートを渡しておく。吹き出しの中に、気持ちを書かせる。	

<p>5 意見交流を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> そのあくる日も～こっそり中へ入りました。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・ごんの気持ちを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> そのとき兵十は、ふと顔を～ぱたりとたおれました。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・兵十の気持ちを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 兵十はかけよってきました。～つつ口から細く出ていました。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・兵十とごんの気持ちを発表する。 <p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんと兵十の気持ちについて分かったことを書く。 	<p>○ごんの気持ちを発表しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ○○という言葉(文)から、○○○○という気持ちが分かります。 </div> <p>○兵十の気持ちを発表しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ○○という言葉(文)から、○○○○という気持ちが分かります。 </div> <p>○兵十の気持ちを発表しましょう。 ○ごんの気持ちを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習範囲全体では難しいので、3つの場面に区切って意見を求める。 ・考える範囲を明確にするため、その都度音読を入れる。 ・発表の仕方を黒板に掲示しておく。 <p>「ごん、おまいだったのか。」 「火なわじゅうをぱたりと取り落としました。」 「ぐったり」「うなずきました」の記述に着目させる。</p>
<p>3 次 まとめ読み(1時間) ・この物語は、悲しい結末となった。最後の場面で二人の気持ちは通い合うことができたのかどうかについて意見交流を行う。</p>		

(6) 板書及びワークシート・配付資料

兵十

青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。

ごん

兵十は、火なわじゅうをぱたりと取り落としました。

兵十

ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。

ごん

ごんを、ドンとうちました。

兵十

「ようし。」

ごん

ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは、

ごん

あのごんぎつねめが、またいたずらをしに来たな。

ごん

こないだうなぎをぬすみやがった

ごん

うら口から、こっそり中へ入りました。

課題

ごんと兵十の気持ちについて考えよう。

ごんぎつね

作 新美 南吉

(7) 単元を通じての成果と課題

○対象児童は、単元テスト（市販の標準テスト）の読み取りで、支援なしでも予想より高得点であった。この結果につながった要因として次のことが考えられる。

- ・語句調べでは、独特の言い回しや、難しい言葉の説明を個別に行ったこと。【ポイント1】
- ・音読の際には、指読みを徹底させ、自分が読んでいるところと、教科書の文章を正確に一致させたことと1時間の授業の中に音読を何度も取り入れたこと。
- ・今までの取り出し授業の中で短文を読ませて、「いつ、どこで、だれが、どうしたか」を確認する授業を続けてきたこと。漢字は、当該学年より半年遅れぐらいの進度で、漢字学習ノートで一日一文字のペースで進めてきた。【ポイント2】

●気持ちを表現する言葉の獲得が十分でないことから、授業で発言して活躍することは難しかった。今後、取り出し授業の中で、気持ちを表す言葉についての学習を進める。【ポイント2】

【ワンポイントアドバイス】

【ポイント1】視覚支援の効果的な指導例について

視覚支援として、「はりきりあみ」の絵や「びく」の写真なども入れるとよいです。また、語句調べの時だけでなく、毎時間同じ写真や絵を用意し、必要なときに「文章」と「イメージ（その情景を想像できたとき）」に合わせて繰り返しタイミングよく見せることで、「語句」として、新しい言葉を効果的に覚えさせることができます。日本人と違い、対象児童にとって新しい語句は、「音（カタカナの響きのようなもの）」でしかないので、語句の定着には効果的な指導のタイミングが必要です。

【ポイント2】取り出し授業との連携、漢字練習について

取り出し授業が可能であれば、事前に気持ちを表す言葉を個別に教え、この授業で発表できるようにする必要があります。全ての授業に必要な語彙の確認は不可能ですが、日本語の目標に「○○○という言葉から、○○○○な気持ちがわかる。」と設定してあるので、その児童の目標達成に必要な日本語力を確認し、授業を構成することが大切です。また、漢字練習では、今、授業で扱っている文章に合わせて行った方が、少しでも授業を理解することができ、対象児童のモチベーションが上がります（情意支援）。